

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



▲ 全員写真(第1班)

▼ 土の土手からきれいにになりました。



子供達には今プラスチックが大きく取り上げられているマイクロプラスチックの問題を取り上げております。



2018.10.17

プラスチック社会は環境ホルモンの社会。  
日常のプラスチックから始まるもののオンパレード。  
現代の生活はプラスチックなしでは到底成り立たない。  
どんな場面でも切り取ってみても、プラスチック製品やポリマー製の食品、合成樹脂でつくられた日用品、溢れ返る。  
それは、飲食にかかわる場面でも例外ではない。  
例えば食品や飲料の保存容器、器や保存袋、さまざまな板が、ウルヤと、お玉にフライ返しと、さくさく、すぐに思い浮かぶものだけども、まさにプラスチックをみれば、あることに気がつく。  
軽くて丈夫な上に、ほかの材質のものより各所であつて、捨てる。  
しかし、これらの製品は、さまざまに、よからぬ、もどろ製造時に利用されるビスフェノールA(BPA)やホルムアルデヒド(HCHO)、フタル酸エチル(PECB)、フタル酸...

プラスチックなどの化学物質は、使用するときや、処分するとき、飲食物に接触するおそれがある。これは、いわゆる「環境ホルモン」と呼ばれ、私たちの心と体をさびせ、さまざまな方向から蝕んでいく。  
環境ホルモンの正式名称は内分泌かく乱物質という。

▼ まなび学園の生徒の草刈り。



行政と企業と地域環境活性化協議会とが、今日まで矢野川大俣町をリードし、ここで十三年も継続実施されています。有難いことです。



2018.08.22